

帝京大学教職大学院

大学院修了後の学び場 / 「帝京特支会」・「板橋勉強会」

大学院生が大学院修了後も、議論や情報交換をしながら、学び続けることができる機会として、「帝京特支会」や「板橋勉強会」を開催しています。大学院教員・退職教員、大学院生・修了生が集まり、それぞれ様々な教育的課題を学び合っています。

●「帝京特支会」(年2回開催)

学校教育では、普通学校の通常学級、情緒の通級指導教室(東京都では特別支援教室)、聞こえと言葉の通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校の全てにおいて特別支援教育が行われています。通常の学級と特別支援教室の連携、交流学級、特別支援学校のセンター的機能など、特別支援教育は教室間、学校種間の連携が重要視されています。そうした状況を踏まえ、特別支援教育をグローバルに捉えることを目指して、活動しています。

活動の中心は、大学院による特別支援教育関連の課題研究報告や、修了生による学校現場の課題整理と実践的研究報告、教育委員会指導主事として担当する教育行政の現状報告や、大学院教員による最新の教育学や関連学問領域に関する講演などです。

また、教育学部に在籍する学生にも帝京特支会への参加を促すなど、特別支援教育に関して教育学部と大学院教職研究科との連携を図っています。



●「板橋勉強会」(年4~6回開催)

教育・教育学・教師教育など、教育に関連するさまざまなテーマを設定し、大学院での学びの継続を目的に2019年から開催しています。

板橋キャンパスの教職大学院学習指導室を会場とすることから「板橋勉強会」と名付けています。

これまでのテーマ:

「教育委員会での研修の課題」

「教師の学び」

